

2017
Vol.12
SENSHU UNIVERSITY

Socio-Intelligence report
Si-REPORT

専修大学のビジョンと現状



建学の精神と21世紀ビジョン 「社会知性の開発」

専修大学は、1880年(明治13年)、米国留学から帰国した4人の若者により創立されました。相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格の創立者たちは、明治維新後、米国のコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てよう。そのことが海外で長年勉強する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。4人の創立者は、帰国後、経済学や法律学を教授するため本学の前身である「専修学校」を創立します。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあって、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。いち早く近代法の考え方をわが国に根付かせようとした本学は、五大法律学校の一つとして重要な役割を担いました。以後、本学は関東大震災や戦禍などによって極めて困難な状況に直面しながらも、学窓の灯火を守り続けてきました。21世紀に入った今日においては、私学全体にふりかかる大きな荒波を乗り越え、さらなる発展を遂げなければなりません。常に創立の原点に立ち返り、本学の進むべき指針を熟慮するとき、自ずと道は拓かれます。その指針として、本学は建学の精神である「社会に対する報恩奉仕」を現代的に捉え直した「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」を21世紀ビジョンに据えました。

今日、グローバル化の拡大と異文化交流の進展、情報化の加速、少子高齢化の進行など、我々が取り組まなければならない課題は山積しています。これらの社会的課題を解決するためには、地球的視野から諸問題を捉える力、創造的発想力、さらには深い人間理解や倫理観が求められます。こうした新時代の社会で求められる知性こそ、「社会知性」だと専修大学は考えます。それは、学生一人ひとりが自己実現に生かせる知であると同時に、「専修大学が創り育てる知」でもあります。

専修大学21世紀ビジョン 「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」

社会知性(Socio-Intelligence)とは

専門的な知識・技術とそれに基づく
思考方法を核としながらも、
深い人間理解と倫理観を持ち、
地球的視野から独創的な発想により
主体的に社会の諸課題の解決に
取り組んでいける能力である。



専修大学がひらく 大学教育の未来。

創立140周年へ向けて、キャンパス構想への
決意と目指すべき教育ビジョン。

専修大学長 佐々木 重人

大学教育を取り巻く環境が激変する中で動き出した
新学部・学科構想と、神田キャンパス整備計画。
先代矢野学長の遺志を受け継ぎ、改革への決意を胸に臨む
佐々木学長に今後の展望を伺いました。



2016年9月より就任した 佐々木学長にお伺いします。

佐々木学長の研究者としての足跡はど
のようなものだったのでしょうか？

少年の頃はあまり勉強に熱心とは言えず、外での遊びや趣味の鉄道模型、中学時代は部活動にと打ち込みました。高校時代は受験に失敗し浪人生も経験しましたね。勉強の面白さに目覚めたのは専修大学に入学してからのことです。実務に直結した会計学科の勉強に没頭するうち、会計学研究を深めたいと思うようになり大学教員となる志を抱きました。昭和58年に大学院博士課程を単位取得満期退学後、商学部助手に就いたのが、私の研究者としてのキャリアの始まりです。専門は会計史で、現代財務会計の基礎が形成された19世紀イギリスでの株式会社社会計実務、特に、鉄道会社の固定資産会計実務の発展過程を研究しました。イギリスにも留学し、企業の会計帳簿などの原史料を長年かけて収集し、著書にまとめました。会計分野の中で歴史研究というものは少々マイナーで理解されにくいこともあり、苦勞もありましたが、歴史学も鉄道も好きでしたので楽しく研究す

ることができました。会計史学会で研究を認められ、論文が会計史学会賞を頂いた時はとても嬉しかったですね。

ですから、専修大学の学生諸君にも、自分が取り組もうと思ったことは途中で諦めず、自分がわからないところがわかるまで、できる限り突き詰める学びをしてほしいと考えます。勉強とは「わからないこと」を知ることであり、物の考え方や論理など、学びの基礎をしっかりと固められる時が大学時代だと思うのです。今後社会に出ても必ず生きる学びの基礎力をこの専修大学で築いていただけたらと願います。

学長就任に伴う所信をお伺いします。

私は専修大学に奉職して今年で34年目になりますが、その間、これほどまでに大きな規模で、学部や大学院組織の再編や新設、キャンパス整備が同時並行的に進み、全学で改革に向かう時代は経験したことはありません。そのために全学でいくつもの検討委員会や作業部会が立ち上がり、教職員のほぼ全員を巻き込んでいる状況です。学長としては、そんな教職員のみなさんの理想や提案が実現できるよう、調整に専念し、目的が遂行できる環境の提供に最大限努めたいと

「地域貢献にも役立つ郊外型キャンパスの理想形を」

考えますし、それが学長の役割だと理解しております。

創立140周年に向けて 動き出したキャンパス構想。

生田キャンパスに2・3号館が完成しました。4月からの本格稼働を控え、施設の特徴や期待される役割をお伺いします。

2号館は、博物館実習施設のほか、アクティブラーニングに対応し、音響や映像設備が充実したスタジオや大きなスクリーンを持つシアターなどの教室があるのが特徴です。授業を録画して配信するなど魅力的な授業が展開できる、言うなれば学生参加型の躍動の学びのスペース。3号館は大学院生の教



室や社会知性開発研究センター、教員研究室が中心となる思索のスペースです。両者合わせて「躍動と思索の学び場」として、9・10号館と親和性を取りながら郊外型キャンパスの理想形を築ければと考えます。公開講座やコンサートを開くなど、地域貢献にも役立つことでしょう。ここは生田キャンパスで最も標高の高い所で不便に思う学生も多いですが、今後は“坂の上の別天地”になれることを期待します。

生田2・3号館に続き神田キャンパスに 新校舎が誕生します。

今年から着工予定ですが、2020年4月、九段下駅から徒歩1分の靖国通り沿いの新校地に15階建ての高層新校舎が完成します。神田キャンパスの新たなシンボルとして、オフィス街にありながら大学の雰囲気を感ぜさせる工夫をし、学生たちの心地良い居場所づくりも意識したいですね。付近には桜の名所の千鳥ヶ淵もあるので、シンボルツリーとして桜を植栽し、美しい街並みの形成にも貢献できたらと思います。



大学教育の未来を見据えた 新学部・学科構想。

いま求められている大学教育とはどのようなものでしょうか？

大学とは、多くの若者が職業人として社会に飛び出す前の、最後の教育課程と言えます。ただし、大学で身に付ける専門知識や技能は、卒業時点の社会や経済環境でしか適用しないこともあります。そこで大学は、常に変化する環境への対応能力を鍛えるべきことを学生に理解してもらう必要があると思います。例えば、今後10年はAI、IoT、シェアリング・エコノミー、フィンテックといった技術的インフラの普及と進歩によって、劇的に職業上の対応を求められる

「国際的視野を身に付けた教養人の育成を目指す」

時代になるでしょう。日本の未来を見据えたダイナミックな視点に立つことも教育には求められると考えます。

神田キャンパスに新たに開設される国際系新学部、商学部移設。その意義についてお聞かせください。

現在、生田キャンパスには経済系3学部（経済・経営・商）があり、都心から西の地域の受験生を3学部で分け合う一方、北や東の地域の受験生が少ないのが現状です。商学部の移設は、神田にビジネス教育の拠点を追加することで関東一円から受験生を集める狙いもあります。また、会計学科の学生の多くは公認会計士などの資格試験に挑むため、神田での資格試験対策の強化も考えております。国際系新学部は、日本語教育と外国語教育を核として専門知識と国際的視野を身に付けた教養人の育成を目指します。国際ビジネスや国際会計分野の教育も盛んな商学部とはカリキュラム交流が効果的に実施できるようにし、法学と商学の分野は補充関係の部分も多い。3つの学部が神田で相乗効果を育てていけたらいいですね。

生田キャンパスでも文学部と経営学部の学科再編が進んでいます。

現在、経営学部は1学科体制ですが、2019年度より新学科を立ち上げ、2学科となる予定です。学部の体制を盤石なものに再編することで、新たな魅力を創出できると期待しています。文学部では人文・ジャーナリズム学科が改組され、2019年度からジャーナリズム学科が誕生します。担当教員の補強を実施し、ジャーナリズム教育の新しいかたちを提案していきたいですね。また、経済学部も2020年度以降の学科再編を目指し検討作業を始めたのでご期待ください。

専修大学の教育ビジョン。

これから専修大学で学ぶ学生をはじめ、校友、育友などのステークホルダーへのメッセージをお願いいたします。

2020年度に向けて、今、専修大学は大改革の最中にあります。その渦中に在籍している学生諸君は、例えば、在学中に新学科が追加されたり、通学するキャンパスが変更されたりすることも経験するでしょう。激動の変化をぜひ共有してもらいたいと思います。校友、育友の方々にはこの改革を見守っていただき、温かいご支援をお願いしたく存じます。

Profile

〔略歴〕1978年専修大学商学部会計学科卒業。83年専修大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得満期退学。博士（経営学）。83年専修大学商学部助手。88年助教授。95年同教授。2013～16年商学部長。11～13年税理士試験委員。専門は会計史。最近の著書『近代イギリス鉄道会計史—ロンドン・ノースウェスタン鉄道会社を中心に—』（2010年、国元書房）▽共著『体系現代会計学第5巻 企業会計と法制度』（11年、中央経済社）▽共著『歴史から見る公正価値会計—会計の根源的な役割を問う—』（13年、森山書店）



新学部・学科構想について

文学部ジャーナリズム学科の改組新設および経営学部での学科増設を伴ったカリキュラム改革が決定。また国際系新学部の新設計画、並びに商学部の神田キャンパスへの移設も進められています。

国際系新学部

商学部神田キャンパス移設

文学部新学科

経営学部学科改組

神田キャンパス整備

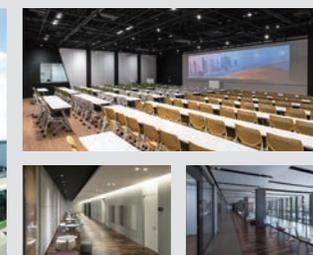
神田キャンパスでは現校舎と新校舎の融合を図り、一体化した都市型キャンパスとしての魅力ある学習環境を整備。国際系新学部の新設、生田キャンパスからの商学部移設により国際色あふれる学びの場が誕生します。



建設予定地合成イメージ

生田2・3号館 竣工

生田キャンパス3号館は、大学院生教室をはじめ社会知性開発研究センターや教員研究室を配置。最上階には都心まで見渡せる多目的コミュニケーションスペースを備えます。2号館は、博物館実習施設のほか、音響・映像設備が充実したアクティブスタジオとラーニングシアターを併設。学生参加型の授業を行う場として多彩な展開が構想されています。両号館は生田キャンパスのシンボルとして、また新たな「知の発信」拠点となることが期待されます。





文学部創立50周年。

シンポジウム、展示、演劇など、各学科がさまざまな記念公開イベントを実施。

ことばと文化を通じて、 知の継承を担う。

1966年に創立されてから50年。文学部は、当初の国文学科、英米文学科、人文学科の3学科から、日本語学科、日本文学文化学科、英語英米文学科、哲学科、歴史学科、環境地理学科、人文・ジャーナリズム学科の7学科と人間科学部(心理学科、社会学科)へと大きく発展を遂げました。これからもことばと文化の教育を通じて知の継承を担い、よりよい未来を作り出すための使命に邁進してまいります。



01 伊能忠敬の 日本全図を復元。

伊能忠敬によって江戸時代に製作された「大日本沿海輿地全図」214枚の復元図を公開。精密な測量に基づいた当時の日本の地形や地名が記された大図は1枚が畳大。来場者は地図上を歩き、200年前の伊能の足跡を実感していました。

02 ハリー・ポッターの 魅力を紐解く。

世界的ベストセラー題材にした記念企画「ゴシック・ファンタジー Harry Potterの正しい読み解き方教えます」を開催。ギリシャ神話や聖書、現代的な要素を組み合わせ紐解く斬新な解釈で重層的な作品世界の魅力を伝えました。

03 心理教育相談室 シンポジウム。

「ここらとの付き合い方・地域に根ざす相談室として」をテーマに心理教育相談室の歩みと地域貢献が紹介されました。

04 被災の気仙沼市 職員を招いて。

学生による被災地での聞き取り調査に応じていただいた気仙沼市職員の方を迎え、その過酷な震災体験を伺いました。

05 「翻訳がひらく未来」 を論じる。

外国文学・哲学、日本の古典など様々な種類の翻訳と、翻訳を取り巻く問題について学科をこえた議論が行われました。

06 気迫の 一人芝居を公演。

老僧が候文で罪を悔いる「榎物語」と、大鯉との因縁を漁師が振り返る「こい」の二本立てにて約80人が引き込まれました。

07 ジャーナリズムの チカラと役割を議論。

日本ペンクラブとの共催で実施したシンポジウムでは言論の自由とそれを支えるジャーナリズムの役割を議論。400名余りが参加しました。

08 戦争の歴史とわたしたち 体験する、伝える、記憶する。

文学部の元・現役教員3人が国家(海軍)、企業(新聞社)、個人(兵士)をテーマに講演。約80人が聴講しました。

09 記念シンポジウム等、 米子市と沖縄で開催。

「地域から出版と読書の未来を考える」を米子市で開催。沖縄の興南高校では「マスメディアの役割と力」をテーマに出前授業を実施しました。

50周年記念祝賀会開催。 半世紀の歩みを記念。

記念祝賀会では「文質彬彬」を揮ごうした仲川恭司名誉教授から廣瀬文学部長に作品が贈呈されました。



国際交流組織間協定締結。

タイ、中国の2大学と協定締結。

本学社会知性開発研究センター/ソーシャル・ウェルビーイング研究拠点は、タイ、チュラロンコン大学社会調査研究所と国際交流組織間協定を結びました。チュラロンコン大学は1917年に創立された名門大学であり、社会調査研究所は途上国における社会調査や教育訓練を目的として同大学に設置されている研究所の一つです。また、本学商学研究所は、中国、首都経済貿易大学工商管理学院と協定を結びました。マーケティング、戦略論、ロジスティクス、経営管理などの分野で多面的な学術交流が期待できます。

新国際交流組織間協定校 New Overseas Partner Organizations	
タイ Thailand	チュラロンコン大学社会調査研究所(バンコク市) (社会知性開発研究センター・ソーシャル・ウェルビーイング研究拠点と協定)
中国 China	首都経済貿易大学工商管理学院(北京市) (商学研究所と協定)



科研費新規採択率私大3位、40.3%

全対象研究機関中11位、私大では3位に。

平成28年度の科学研究費助成事業(科研費)の配分状況が文部科学省より公表されました。本学の新規採択率は40.3%(全国平均26.4%)で、新規応募件数が50件以上の研究機関の中で11位、私大で3位となっています。研究分野別採択件数(過去5年の新規採択件数累計)では、英語学が5件で全研究機関中8位、会計学が9件で同10位です。

平成28年度 科研費新規採択分採択率		
順位	機関名	採択率
1	一橋大学	51.6%
2	東京外国語大学	50.6%
3	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター	42.8%
4	高知県立大学	42.4%
5	東京学芸大学	41.6%
5	学習院大学	41.6%
7	奈良教育大学	41.2%
8	福井県立大学	40.7%
9	日本福祉大学	40.4%
9	国立研究開発法人 国立がん研究センター	40.4%
11	専修大学	40.3%
12	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター	40.0%
13	九州歯科大学	39.4%
14	京都薬科大学	38.9%
14	関西学院大学	38.9%

※2016年10月現在

III 社会知性開発研究センターでシンポジウム開催。

本学が目指す「社会知性の開発」実現のために設置された社会知性開発研究センターのうち、ソーシャル・ウェルビーイング研究センター、古代東ユーラシア研究センター、アジア産業研究センターの3プロジェクトでシンポジウムを開催。その研究成果が広く公開されました。





森本ゼミ「大学生、限界集落へ行く」。

新潟県南魚沼市、住人の半数以上が65歳以上の限界集落で活性化に奮闘。

南魚沼市の中山間地域にある辻又は、15世帯43人の住人のうち、半数以上が65歳以上と高齢化が進むいわゆる「限界集落」です。この村を活性化させるという難題に、「理論と実践の融合」を掲げる経営学部の森本祥一ゼミの学生たちが取り組んでいます。森本ゼミと辻又は集落との出会いは、森本教授が14年度に新潟県から「大学生の力を活かした集落活性化事業」の調査・

研究を受託したことが契機で、同年よりゼミ生による現地調査がスタート。その長期にわたる活動記録は、ゼミ生の手によって書籍化(『大学生、限界集落へ行く』専修大学出版局)も果たしました。ゼミ生たちの活動は今も続いており、16年度には再度受託事業化。現在、同ゼミでは、古民家再生や観光マップ作りなど、活性化へ向けた新たな計画の策定が進められています。



経営・森本ゼミ刊行『大学生、限界集落へ行く』(本体1500円+税)



経済学部2学生が中南米に留学。

メキシコ、ペルー、グアテマラへ。「世界に羽ばたきたい」と意気込み語る。

メキシコと日本の懸け橋になりたいと話す道満蘭華さん(国際経済3)は、高校時代にもメキシコのシウダー・フアレスに交換留学生として滞在した経験を持ち、今回、日本とメキシコ両政府による「日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画」の派遣留学生として選ばれました。派遣期間は1年間で、メキシコ国立自治大学(UNAM)で経済学を学びます。安藤聡希

さん(経済4)は、官民協働で留学を支援する「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」事業に合格。ペルー、グアテマラの2カ国で、日本人向けのオンラインスペイン語学習サービスを展開する日系NPOでインターンシップを行っています。本留学をステップに二人の今後の活躍を願うと共に、今後も海外へ羽ばたく意欲をもった専大生がますます増えることが期待されます。



安藤さん(左)、道満さん(右)と留学のアドバイスをする経済学部の狐崎教授

ペルー首都リマ

メキシコ国立自治大学(UNAM)



大関稔さん囲碁タイトル獲得。

学生囲碁世界チャンピオン2連覇、学生本因坊戦とアマ本因坊戦もダブル優勝。

学生囲碁の世界一を決める第15回世界学生囲碁王座戦(日本経済新聞社、パンダネット、全日本学生囲碁連盟共催)において、大関稔さん(商2)が、オーストラリア、中国、台湾代表を破り、米国代表との優勝決定戦を制して、史上初の2連覇を果たしました。日本勢の優勝は3回目となります。大関さんは、これまで学生三大タイトルの全日本学生囲碁十傑戦(朝日新聞社主催)と全日

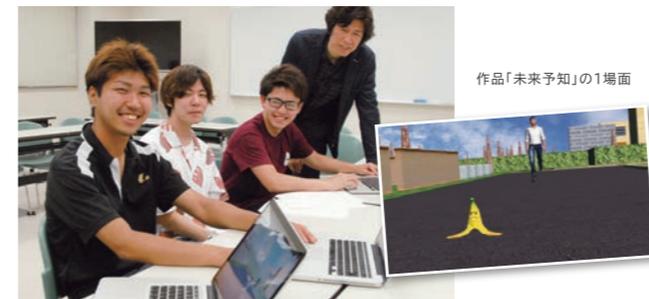
本学生囲碁王座戦(日本経済新聞社主催)に優勝して二冠を獲得。「十傑戦」以来公式戦無敗と絶好調の勢いそのままに、残る学生本因坊戦とアマ本因坊戦のダブル優勝を達成するなど、学生囲碁の主要タイトルを2年間にわたり制覇する偉業を成し遂げました。本学ではその活躍を称え、研究活動や課外活動などで優れた活躍をした学生やグループを顕彰する学長賞を贈呈しました。



CGアニメーションの世界大会へ。

日本代表として本学から初の本選出場。

ネットワーク情報学部渡部健司プロジェクトの3年次生が、初参加したCGアニメーションコンテストの国内予選を突破、台湾で開催される本選への出場を決めました。台湾のIT企業が主催するこの「ASIAGRAPH Reallusion Award」コンテストは、アジアを中心に大学や専門学校など100校以上約300チームが参加。与えられたテーマを基に、48時間以内に作品を仕上げそのクオリティを競うものです。メンバーは高津戸広樹さん、大川翔生さん、木原海さんの3人。「世界の舞台で頑張りたい」と、決意も新たに抱負を語りました。



作品「未来予知」の1場面



難関突破を祝う。

司法試験、公認会計士、国家公務員採用総合職試験。

「2016年度合格祝賀会」が神田キャンパスで開かれ、公認会計士試験をはじめとする難関試験合格者たちが互いにその成果を祝福しました。今年度は公認会計士試験18人中、現役合格者が9人(3年次生3人)で、在学生の奮闘がひととき目立ちました。式では日高義博理事長、佐々木重人学長をはじめゼミ指導の教員や育友会、校友会関係者から次々と祝辞が述べられると共に、大学、育友会、校友会職域支部の法曹会、会計人会から記念品を贈呈。また、現役合格者には、校友会より学生奨励賞が贈られました。



分析コンクール最優秀賞受賞。

心理学の統計知識を活かしてテレビCMの効果を解析。

野村総合研究所主催のマーケティング分析コンテスト2016で、心理学専攻院生の北條大樹さん(院修1)、田中利夫さん(院修2)、坂本次郎さん(院博1)、柚取恵太さん(院博1)の報告が最優秀賞に選ばれました。マーケティング分野では国内最大級となるこのコンテストは、野村総研が調査・収集したデータを基に斬新なビジネスの法則などを導き出し、その内容を競うものです。専修院生チームは、非耐久消費材全体と飲料などのカテゴリー別にテレビ広告の有効性を分析。そのデータ活用法・解析手法が高く評価されました。



開門神事で「一番福」。

5000人の参加者を抑え競走を勝ち抜く。

毎年1月10日、兵庫県西宮市の西宮神社で行われる「開門神事福男選び」。表大門から230m離れた本殿へ「走り参り」して一番乗りを競うこの名物行事の「一番福」を本学の鈴木隆司さん(経済3)が見事勝ち取りました。「学生時代に一度挑戦してみたかった」という理由で、川崎市から西宮市まで電車で約8時間かけて参加。福男となった後は大阪や岩手、東京、神奈川でイベントが相次ぎ多忙な毎日が続きましたが、岩手県出身で東日本大震災に被災した経験から「全国からの支援の恩返しに少しでも福を分けたい」と想いを語りました。



GO FOR
2020
TOKYO**SENSHUSPORTS**

2020年東京オリンピックを控え、専大出身のスポーツ選手達もがんばっています。

スポーツ研究所シンポジウム「**オリンピック・パラリンピックのレガシー**」を開催。

生田キャンパスで開催されたシンポジウムには、女子レスリング五輪4連覇を達成し国民栄誉賞を受賞した伊調馨選手をはじめ、鈴木大地スポーツ庁長官(ソウル五輪水泳100㍑背泳ぎ金)、パラリンピック陸上男子走り幅跳び銀メダルの山本篤選手、ロス五輪レスリング代表の馳浩前文科大臣(昭59文)が参加し、佐藤満経営学部教授(ソウル五輪レスリング金メダリスト)の司会で進行。歴代メダリストらの熱い議論に約700人の観衆が聞き入りました。



前広島東洋カープの黒田博樹さんを讃えて。

日本人投手で史上初めてNPB/MLB通算先発勝利数のみで200勝達成。

専修大学のOBであり、東都大学リーグからプロ野球「広島東洋カープ」、そして大リーグと、日本から世界へ飛躍した黒田博樹さん(平9商)。投手としてはチームで3番手だった高校時代、そしてその才能の礎を築き上げた専大野球部の頃から地道に努力し続けたその野球人生は、まさに意思を貫

き自ら道を拓いていく「専修スピリット」を体現するものでした。そこで本学では、黒田さんに現役最後の1年間、広告出演を依頼。駅看板や鉄道車内広告などへの起用のほか、本拠地・広島市では市内最大のアーケード街に雄姿を伝える専大の巨大な広告幕が登場するなど、大きく話題を呼びました。また、日米通算200勝という金字塔を打ち立てた業績を記念し、専大時代やメジャーリーグでのピッチング姿、広島マツダスタジアムを埋め尽くした大観衆の中での200勝投球シーンなど、14点の写真と等身大のパネルを展示した写真展を生田キャンパス9号館1階で開催。そのほか期間限定



黒田投手200勝記念写真展

200勝達成試合

商品として、黒田さんの雄姿をあしらった専修大学オリジナルのペットボトル「専茶」とマグカップを発売するなど数々の応援キャンペーンを展開し、その偉業を讃えました。



山中慎介選手が12度目の防衛。

具志堅氏が持つ日本人最多防衛記録に迫る。

WBC(世界ボクシング評議会)バンタム級王者でボクシング部OBの山中慎介選手(平17商=帝拳)が、同級6位のカルロス・カールソン選手とのタイトルマッチで、見事12度目の防衛を果たしました。12連続防衛は日本人歴代2位で、現役王者では最多。30年以上破られていない具志堅用高さんの13連続防衛という大記録更新にもあと1つと迫りました。



森山さんが日本ハム4位指名。

育成力に定評のあるチームで成長に期待。

プロ野球のドラフト会議において、専大打線の中軸を担ってきた外野手の森山恵佑さん(商4・星稜高)が北海道日本ハムファイターズから4位指名を受けました。森山さんは189㍑・95㍑の恵まれた体格を持ち、長打力が魅力の左打者。本学在学生のドラフト指名は2006年の長谷川勇也選手(平19商=福岡ソフトバンクホークス)以来となります。



OB池田選手が巨人へ入団。

専大卒業後は社会人野球で日本一に輝く。

読売ジャイアンツからドラフト4位指名を受けた池田駿選手(平27商)が神田キャンパスを訪れ、日高義博理事長、佐々木重人学長らに入団を報告しました。池田さんは「指名されると思っておらず、信じられない。けがをしない体を作り、黒田博樹さんのように1年でも長く活躍したい」と偉大な先輩の名を挙げて意気込みを語りました。



相撲部福山さんが角界入り。

先輩である藤島親方の下で幕内を目指す。

相撲部の福山聖和さん(商4・鹿児島商高)の藤島部屋入門が決まりました。福山さんは172㍑・100㍑と力士としては小兵ながら、多彩な技を持つ技巧派。入門会見では、藤島親方(元大関・武双山、本学相撲部出身)、蒲田重勝監督とともに出席。「十両や幕内で活躍できるように稽古し、地元で愛される力士になりたい」と抱負を述べました。



UIターン就職協定を16府県1市に拡大

本学では専大生の就労支援の一環として、若者の就職や定住促進に力を入れている地方自治体16府県1市とUIターン就職支援協定を締結しています。鳳祭に合わせ生田キャンパスで行われたイベントでは各自自治体の就職支援策や企業を紹介。訪れた学生や保護者の方に魅力をアピールしました。



協定締結自治体 群馬県/茨城県/栃木県/長野県/静岡県/山形県/新潟県/秋田県/札幌市 宮城県/福島県/熊本県/福岡県/佐賀県/青森県/石川県/大阪府

※ 2017年3月末現在

行方市と連携協定

本学では茨城県行方市と地方創生に関する連携協定を締結。エリアワンセグ放送「かわさきワンセグ」の運営実績を持つネットワーク情報学部・福富忠和研究室が中心となり、同市の防災対応型エリア放送「なめがたエリアテレビ(なめテレ)」の番組制作に協力しています。また本計画に関連して、地域の児童生徒に映像制作の指導も行うなど、学生が教えながら自らも学ぶ新たな体験型教育への試みを進めています。



～貴重書ギャラリー～

専修大学図書館は、明治44年(1911)創立者の相馬・田尻還暦記念文庫を元に、大正元年(1912)図書館を開設、平成24年(2012)に100周年を迎えました。この間に収集した図書資料は約170万冊に及び、なかにはフランス革命期の大コレクション(バルンシュタイン文庫)、江戸戯作コレクション(向井文庫)、蜂須賀家旧蔵本、本学ゆかりの方々の旧蔵コレクション、さらには世界の名著・古典と評される図書なども所蔵しています。

【和書】伊勢物語



【和書】伊勢物語
[藤原為氏筆]
[鎌倉初期写]
1帖 23.0×15.3cm
蜂須賀家旧蔵

水色地蔓花文絹表紙、見返しは茶色・金銀切箔霞文、鳥の子、一面八行・歌二行書。奥書に、藤原定家(1162-1241)によって建仁二年(1202)に書かれた本をもとに、嘉禎四年(1238)沙弥寂身が書写し、それを藤原為氏(1222-1286)が転写したものであることが記されている。古筆了音(1674-1725古筆鑑定家)の外題極札と極書が二枚ある。伊勢物語は在原業平の和歌を中心にして、百二十五の章段の歌物語からなり、和歌二百九首が詠われている平安初期の歌物語。「竹取物語」から「源氏物語」に至る物語文学の中間的存在として注目される。源氏物語にも登場しており、当時よく読まれていたことがうかがわれる。

【Si-report】

「Si」とは… 「社会知性: **Socio-Intelligence**」の頭文字[S][I]と「**SENSHU Intelligence**」の頭文字[S][I]を表現しています。本誌は、専修大学のビジョンと現状をレポートしていきます。



【シンボルマーク&カラー】

Sの字は専修大学と21世紀ビジョン「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」の「S」を意味します。ブルーの曲線は大海原を、緑の球体は地球を表し、本学で「社会知性」を育んだ人材が世界に輩出され、活躍する様を表現しています。



専修大学マスコット
「センディ」

【マスコット】

獅子の顔と鳳の羽を配した本学のマスコットは、若者たちに無限の可能性を持つ未来へ力強く羽ばたいて欲しいという思いが込められています。

専修大学 学長室企画課

(神田校舎)〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8 (生田校舎)〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1
Tel:044-911-1252 Fax:044-900-7803 <http://www.senshu-u.ac.jp/>

※本誌は、学生・教員へのインタビューに加え、ニュース専修掲載記事や本学HP等を通じて公開された情報を元に編集し発行しています。